(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3201315号
(U3201315)
(45)発行日　平成27年12月3日(2015.12.3)　(24)登録日　平成27年11月11日(2015.11.11)

(51)Int.Cl.　　F I
A47K 10/02 (2006.01)　　A47K 10/02　A

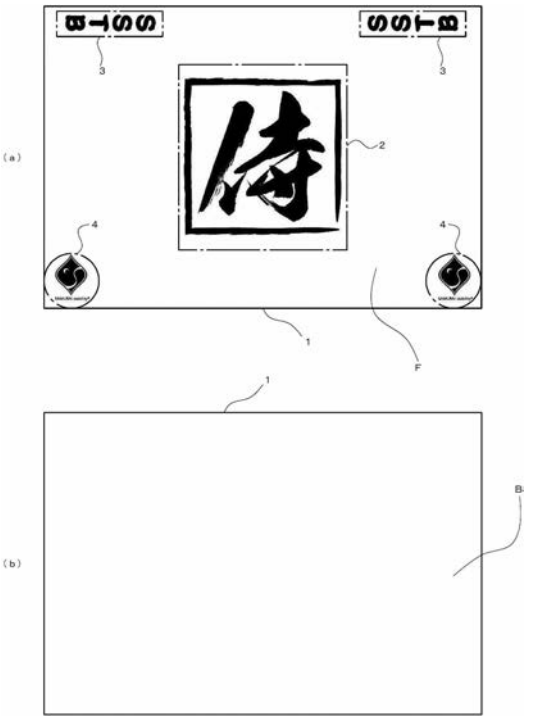
評価書の請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 9 頁）

(21)出願番号　実願2015-4770(U2015-4770)
(22)出願日　平成27年9月18日(2015.9.18)

(73)実用新案権者　513267578
稲垣　宗員
徳島県徳島市川内町榎瀬６８４－１
(74)代理人　100137338
弁理士　辻田　朋子
(72)考案者　稲垣　宗員
徳島県徳島市川内町榎瀬６８４－１

(54)【考案の名称】タオル

(57)【要約】　（修正有）
【課題】タオルに描かれたデザインを周囲により美しく表示し、更に屋外での使用に適したタオルを提供する。
【解決手段】肩に羽織って使用される略矩形のタオル１であって、少なくとも一方の面がマイクロファイバー繊維で編まれた生地によって形成され、タオル１の図柄として、物品の一方の縁部近傍に、一方の縁部に沿って相対する方向に描かれた１対の襟字３と、物品の略中央部に、他方の縁部に向かって描かれた大紋２と、を有する。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
肩に羽織って使用される略矩形のタオルであって、
少なくとも一方の面がマイクロファイバー繊維で編まれた生地によって形成され、
前記タオルの図柄として、該物品の一方の縁部近傍に、前記一方の縁部に沿って相対する方向に描かれた１対の襟字と、
該物品の略中央部に、他方の縁部に向かって描かれた大紋と、を有することを特徴とするタオル。
【請求項２】
前記図柄は、前記他方の縁部側の２隅近傍にそれぞれ描かれた一対の小紋を有すること、を特徴とする請求項１に記載のタオル。
【請求項３】
前記小紋は、前記他方の縁部に向かって描かれていることを特徴とする請求項１又は請求項２に記載のタオル。
【請求項４】
前記一方の縁部並びに他方の縁部の長さは１００～１８０ｃｍであり、
前記一方の縁部並びに他方の縁部の幅方向の長さは５０～１００ｃｍであること、を特徴とする請求項１～３の何れかに記載のタオル。
【請求項５】
前記生地には、光触媒が織り込まれていることを特徴とする、請求項１～４の何れかに記載のタオル。

【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案はタオルに係わり、特に、肩に掛けて使用するタオルに関する。
【背景技術】
【０００２】
夏場の祭事やスポーツ観戦といった野外でのアクティビティに際して、タオルが利用されている。
【０００３】
特に、祭事やイベントなどでは、祭事の名称や、イベントの名称などを用いてデザインされたタオルが販売・配布などされ、利用されている。こうしたデザインのタオルは、イベントでの一体感を生じさせるため、多くの利用者に親しまれている。
【０００４】
特に、祭事などでの携帯性を向上させたタオルとして、特許文献１に記載のタオルが知られている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００５】
【特許文献１】実用新案登録第３１７５８７６号公報
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００６】
しかしながら、従来のタオルには、いくつか問題がある。まず、首から下げて利用されるため、タオルにしわが寄ってしまい（タオルが寄れてしまい）、タオル表面に描かれた祭事名やイベント名、デザインなどが見づらくなってしまう。
【０００７】
また、汗を拭きとることを主な目的として提供されており、屋外での突然の雨や日中の日差し等には、十分に対応することができない。

【０００８】
本考案は上述のような実状に鑑みてなされたものであり、タオルに描かれたデザインを周囲により美しく表示し、更に屋外での使用に適したタオルを提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】
【０００９】
上記課題を解決するために、本考案に係るタオルは、肩に羽織って使用される略矩形のタオルであって、少なくとも一方の面がマイクロファイバー繊維で編まれた生地によって形成され、前記タオルの図柄として、該物品の一方の縁部近傍に、前記一方の縁部に沿って相対する方向に描かれた１対の襟字と、該物品の略中央部に、他方の縁部に向かって描かれた大紋と、を有することを特徴とする。
【００１０】
このような構成とすることで、タオルに描かれた襟字と、大紋と、を美しく表示し、目立たせることが可能なタオルを提供することができる。肩に羽織って使用することで、タオルが寄れることを防ぎ、襟字や大紋の部分を綺麗に表示することが可能である。
【００１１】
また、このタオルを羽織った際に、法被というデザイン性が、祭事やイベントに参加する集団や団体への帰属意識、一体感を高め、人間どうしの心のつながりを啓発する効果が感じられる。
【００１２】
また、マイクロファイバー繊維で編まれた生地で構成されているため、吸水性及び速乾性に富んだタオルを提供することができる。羽織ることで、首から腕や背中にかけて広い範囲への紫外線の照射を遮蔽する効果が期待できる。加えて、従来のタオル地より薄く嵩張らない為、肩に羽織る大判のタオルであっても、その携帯性を損なわない。なお、室内で羽織ることにより冷房病予防効果が期待できる。
【００１３】
本発明の好ましい形態では、前記図柄は、前記他方の縁部側の２隅近傍にそれぞれ描かれた一対の小紋を有すること、を特徴とする。
また、本発明の好ましい形態では、前記小紋は、前記他方の縁部に向かって描かれていることを特徴とする。
【００１４】
このような構成とすることで、法被というデザイン性を損なうことなく、集団や団体への帰属意識、一体感を高める模様を付することができる。
【００１５】
本発明の好ましい形態では、前記一方の縁部並びに他方の縁部の長さは１００～１８０ｃｍであり、前記一方の縁部並びに他方の縁部の幅方向の長さは５０～１００ｃｍであること、を特徴とする。
このような構成とすることで、肩に羽織ることができる大判のタオルを提供することができる。
【００１６】
本発明の好ましい形態では、前記生地には、光触媒が織り込まれていることを特徴とする。
このような構成とすることで、光触媒によって、タオルに消臭効果や殺菌効果、抗菌効果、臭い分解効果を付加させることができる。

【考案の効果】
【００１７】
タオルに描かれたデザインを周囲により美しく表示し、更に屋外での使用に適したタオルを提供することができる。

【図面の簡単な説明】
【００１８】

【図１】本考案の一実施形態に係るタオルを示す図である。図１（ａ）は、タオルの表面図を示し、図１（ｂ）は、タオルの裏面図を示す。
【図２】本発明の実施形態１に関るタオルを肩に羽織った状態を示す図である。図２（ａ）は、タオルを肩に羽織った状態を示す正面側装着図であり、図２（ｂ）は、タオルを肩に羽織った状態を示す背面側装着図である。
【図３】本考案の実施形態２に係るタオルを示す図である。図１（ａ）は、タオルの表面図を示し、図１（ｂ）は、タオルの裏面図を示す。
【考案を実施するための形態】
【００１９】
＜実施形態１＞
以下、本考案の一実施形態について、図面を参照して詳細に説明する。符号１は、実施形態１に関るタオルを示し、符号Ｆはタオル１の表面を、符号Ｂはタオル１の裏面をそれぞれ示している。図１は本考案の一実施形態に係るタオル１を示す図である。図１（ａ）は、タオル１の表面図を示し、図１（ｂ）は、タオル１の裏面図を示す。
【００２０】
図１に示すように、タオル１は長方形に構成され、その長辺の長さはおよそ１３０センチメートル、短辺の長さはおよそ９０センチメートルである。タオル１は、大紋２と、一対の襟字３と、一対の小紋４と、を備えている。
【００２１】
実施形態１におけるタオル１は、ポリエステルのマイクロファイバー繊維及びナイロンのマイクロファイバー繊維で編まれた布地で形成されている。前記布地は、ポリエステルのマイクロファイバー繊維のみや、他のマイクロファイバー繊維を用いて形成されても構わない。
【００２２】
また、前記布地には、酸化チタンの光触媒が編み込まれており、紫外線と給気中の水分を利用して触媒反応を起こす。これにより、脱臭効果や抗菌効果、臭い分解効果が期待できる。編み込む光触媒は、酸化チタン以外のものであっても構わない。
【００２３】
図示例では、タオル１の裏面Ｂには特に模様は描かれていないが、彩色を施したり、模様を施すようにしても構わない。また、表面Ｆに施すような、法被に相当するデザインを裏面にも施し、リバーシブルとして利用可能に構成しても構わない。
【００２４】
大紋２は、タオル１の表面Ｆの中央部に、一方の長辺（図中上方向）から他方の長辺（図中下方向）に向かって、備えられている。大紋２は、必ずしも一方の長辺と他方の長辺との中間部に配置されている必要はなく、例えば、図示例から他方の長辺側に寄った位置に配置するようにしても構わない。大紋２は、必ずしも紋章や家紋などである必要はなく、模様やロゴマーク、文字などであっても構わない。
【００２５】
襟字３は、タオル１の表面Ｆの一方の長辺近傍に、相対するように一組備えられている。襟字３は、図示例では相対するように配置された同様の模様（ＳＳＴＢ）により構成されているが、それらが別々の模様であっても構わない。襟字３は、必ずしも文字であるである必要はなく、模様やロゴマーク、家紋、紋章などであっても構わない。
【００２６】
小紋４は、タオル１の表面Ｆの他方の長辺側の２隅（図中左下の隅及び右下の隅）付近に、一組備えられている。図示例では、小紋４は同様の模様により構成されているが、それらが別々の模様であっても構わない。また、他方の長辺方向に向かって表示されているが、小紋が配置された隅を構成する短辺に向かって表示したり、隅の方向に向かって表示するようにしても構わない。小紋４は、必ずしも紋章や家紋などである必要はなく、模様やロゴマーク、文字などであっても構わない。
【００２７】

図２は、本発明の一実施形態に関るタオルを肩に羽織った状態を示す図である。図２（ａ）は、タオルを肩に羽織った状態を示す正面側装着図であり、図２（ｂ）は、タオルを肩に羽織った状態を示す背面側装着図である。

【００２８】

タオル１は、タオル１の背面Ｂが背中に接するように、一方の長辺を法被の襟に見立てて肩に羽織ることで、装着される。装着時には、図２（ａ）に現れるように、装着者の正面側に一対の襟字３が現れる。また、図２（ｂ）に現れるように、装着者Ｍの背面側に大紋２が現れる。小紋４は、タオル１の大きさや装着者Ｍの体型、タオルの装着方法などにより現れる位置が異なるが、図示例では、背面側に現れている。

【００２９】

＜実施形態２＞

次いで、本考案の実施形態２に関るタオル１について説明する。なお、実施形態２において、前述の実施形態１と基本的に同一の構成要素については、同一の符号を付してその説明を簡略化する。実施形態１との相違点は、襟部５が設けられている点である。

【００３０】

図３は、本考案の実施形態２に関るタオルを示す図である。図１（ａ）は、タオルの表面図を示し、図１（ｂ）は、タオルの裏面図を示す。

【００３１】

符号５は法被の襟に相当する、襟部を示している。襟部５は、襟字３を備えており、タオル１の一方の長辺（装着者の首に接する縁部）に沿って配置されている。このような構成とすることで、より法被に近いデザインのタオル１を提供することができる。

【００３２】

本発明によれば、タオル１の装着時に、描かれた襟字３と、大紋２と、を美しく表示し、目立たせることが可能なタオル１を提供することができる。肩に羽織って使用することで、タオル１が寄れることを防ぎ、襟字３や大紋２の部分を綺麗に表示することが可能である。

【００３３】

また、タオル１を羽織った際に、法被というデザイン性が、祭事やイベントに参加する集団や団体への帰属意識、一体感を高めるため、人間どうしの心のつながりを啓発する効果が期待できる。襟部５を備えることで、更に法被に近いデザインのタオル１を提供することができる。

【００３４】

また、マイクロファイバー繊維で編まれた生地で構成されているため、吸水性及び速乾性に富んだタオル１を提供することができる。

【００３５】

また、マイクロファイバー繊維を使用することで、タオル１を形成する生地を薄くすることができる。従来のタオル地より薄く嵩張らない為、肩に羽織る大判のタオル１であっても、その携帯性を損なうことなく、持ち運びできる。

【００３６】

また、マイクロファイバー繊維で編まれた生地に光触媒が織り込まれていることで、タオル１に消臭効果や殺菌効果、抗菌効果、臭い分解効果を付加させることができる。

【００３７】

また、タオル１を羽織ることで、首から腕や背中にかけて広い範囲への紫外線の照射を遮蔽する効果が期待できる。なお、室内で羽織る場合には、冷房病予防効果が期待できる。

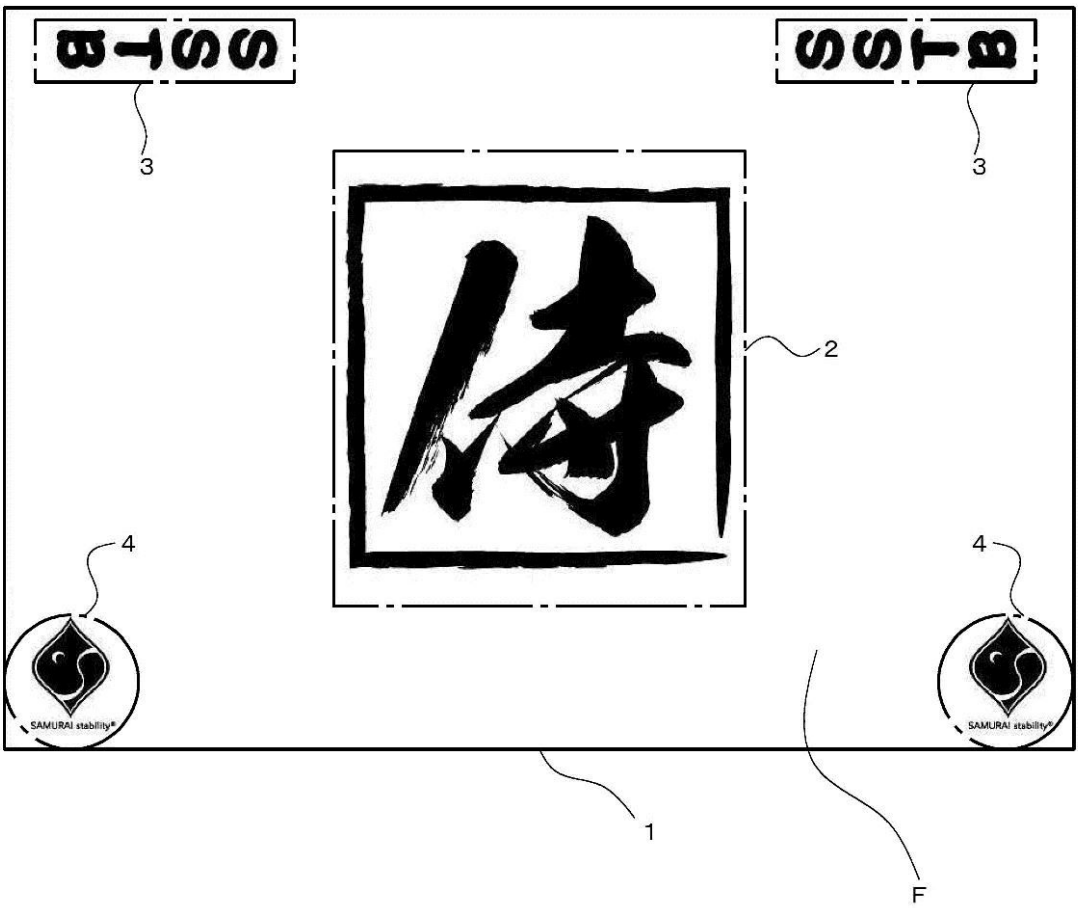
【００３８】

マイクロファイバー繊維で編まれた生地は手触りが非常によく、人間の触覚を刺激することで、五感を研ぎ澄ませることができる。本来、五感を刺激するためには激しい運動などが必要であるが、タオル１を触った際の触覚から五感を刺激できる。そのため、高齢者等の激しい運動が出来ない使用者であっても、感覚の衰えを防ぐ効果が期待できる。

【００３９】
　また、五感を研ぎ澄ますことで筋力の発揮をコントロールする効果が感じられ、姿勢改善や美容メソッド等、運動のツールとして使用することもできる。
【００４０】
　タオル１を触ることにより、人間の五感である触覚から脳にアプローチして、味覚を変化させる効果も期待できる。そのため、新感覚のダイエットツールとしても活用できる。羽織れる程度の大判のタオルであり、吸水性が高く嵩張らない為、テーブルクロスとして活用することもできる。
【００４１】
　特殊な生地でできたタオル１をスポーツの際に羽織ることで、休憩中や待ち時間にも五感を刺激できる。そのため、ウォーミングアップやクールダウン、トレーニングツールとして活用することもできる。
【００４２】
　ライブイベント等のグッズとしても有効である。タオル１を羽織ることで、ファンとしての帰属意識はもちろん、ファッション性が高くなる。マイクロファイバー繊維の生地により、五感を刺激する効果が期待できるため、ライブイベントで視覚や聴覚を刺激するツールとしての効果も期待できる。
【００４３】
　例えば、タオル１をスポーツの応援グッズとして使用することで、チームへの帰属意識を高めることができる。肩に羽織る大判のタオルであるため、タオルの表面と裏面の色の違いを利用して、人文字などのマスゲームツールとしても活用することができる。
【００４４】
　また、さまざまな祭事やイベントのグッズとして活用できる。実際の法被より多様な機能性があり、嵩張らないため持ち運びしやすく、そのファッション性から祭事やイベントに参加する意識が高まる。お土産としても祭事やイベントに彩りを加えることができる。日本の文化である法被を模しているため、外国人への贈り物やお土産等に適している。
【符号の説明】
【００４５】
１　タオル
２　大紋
３　襟字
４　小紋
５　襟部
Ｆ　表面
Ｂ　裏面
Ｍ　装着者

【図１】

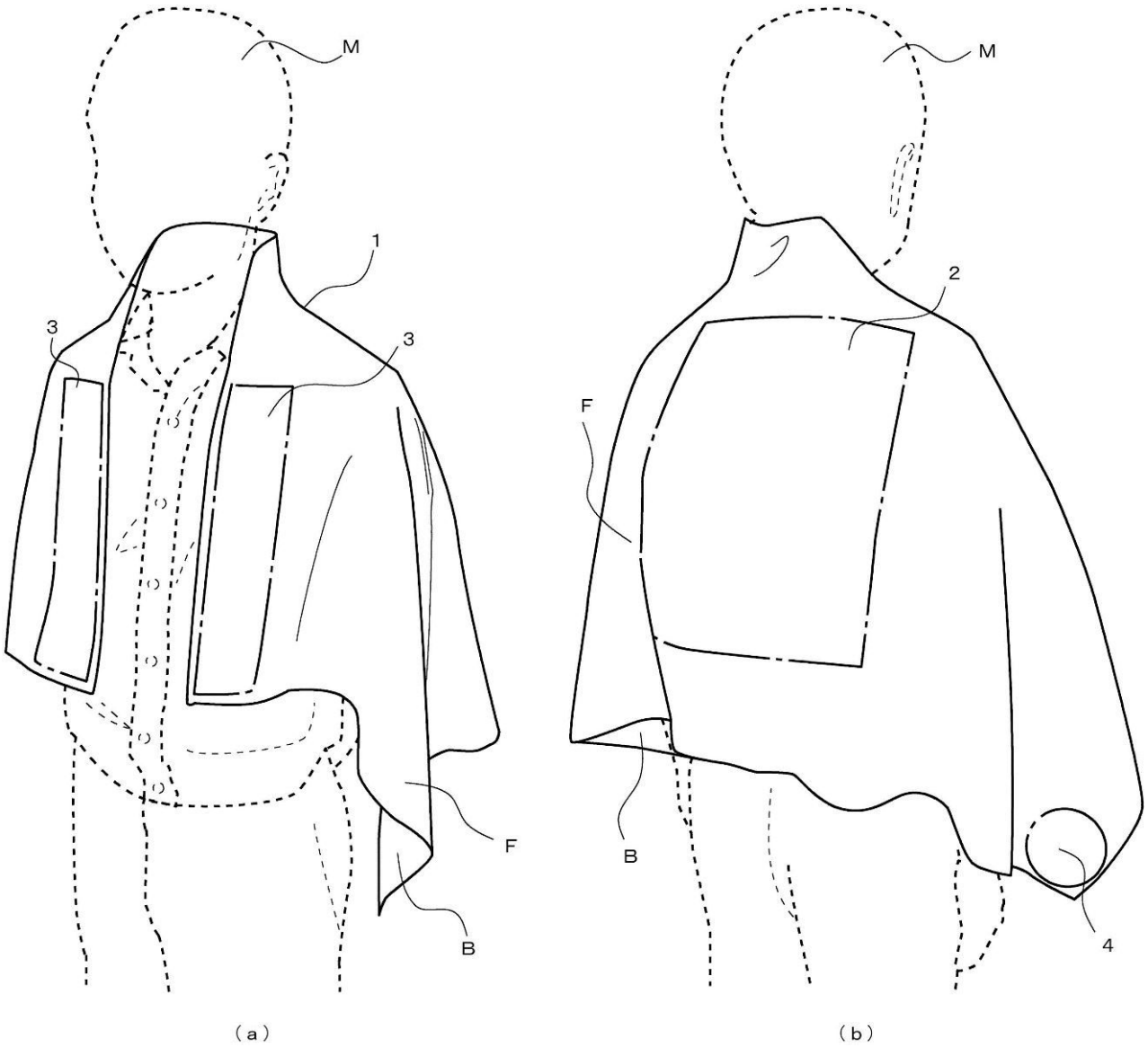
（ａ）



（ｂ）

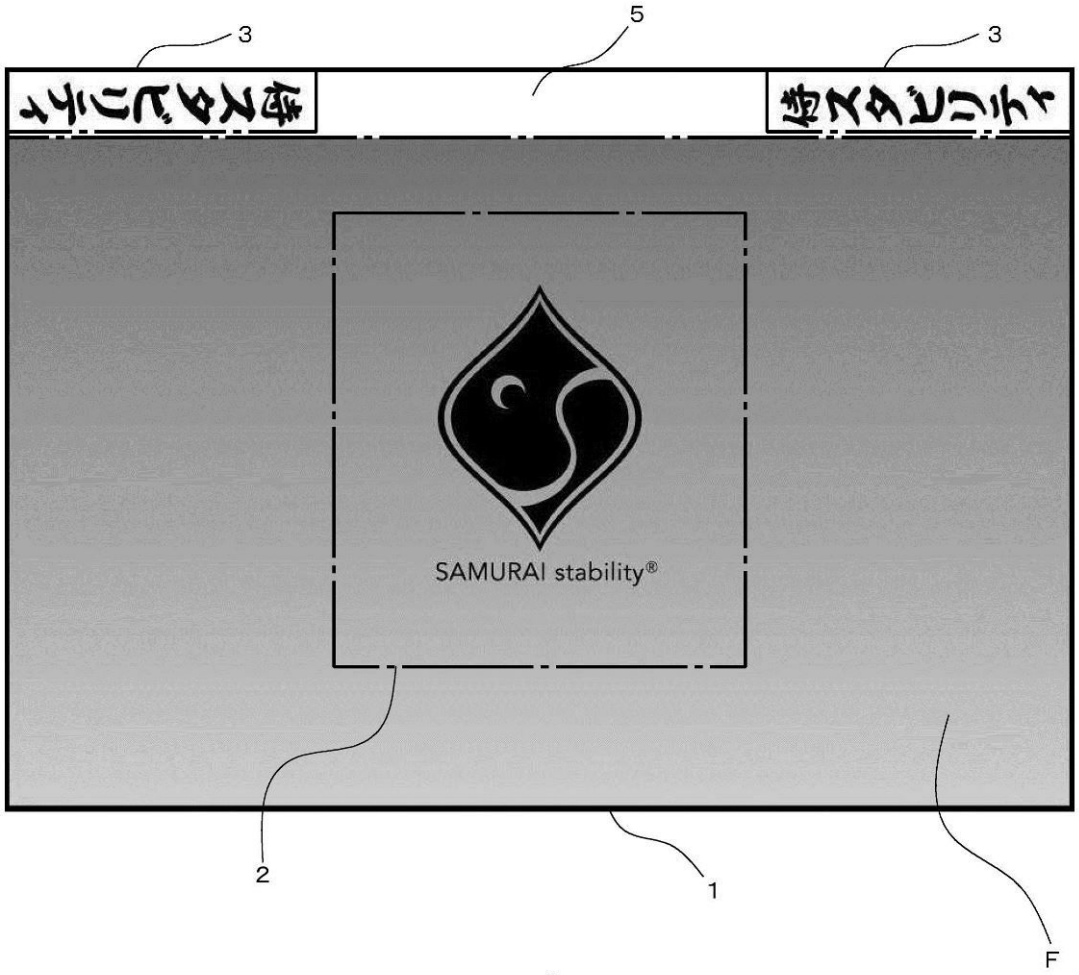


【図２】



【図３】

（ａ）



（ｂ）

